

保護者のことば

伊那西高等学校

2023（令和5年度）卒業生の保護者の方々から寄せていただきました。

（原文のまま）

A様（S・Iさんのお母さま）

保護者向けの学校見学で初めて伊那西高校を訪れた時に具体的に「コレ！！」という決定打があったわけではないのですが、とにかく学校全体の雰囲気良かった事を覚えています。また実際に娘さんを通わせている保護者の方たちは皆口々に「伊那西で良かった」とおっしゃっていたのも今となれば同感です。誰かに尋ねられたら私も同じ答えをする事でしょう。

中学時代の娘は自主性があまりなく、とにかく受け身。やればできるかもしれないのにやる前から「無理」とあきらめてしまうタイプで「失敗したら恥ずかしい⇒だから何もしない。その方が安心だから・・・」という感じでした。

伊那西に入学し、クラブ活動は未経験のソフトボール。「えっ??大丈夫??」と心配でしたが新入部員の殆どが未経験者というのも本人にとっては良かったのかもしれない。ただ2年に進級する頃クラブに向かう足が重くなる事がありました。原因は先述した「自信のなさ」からくるものでした。2年になったら試合に出る可能性が増える。「失敗したら、ミスしたらどうしよう。私のせいで負けたらどうしよう」。まだ始まってもないし、試合にすら出られるかもわからないのに勝手に不安がって、心配して・・・そこで顧問の先生に相談した所そんな娘の気持ちを尊重し理解したうえで無理強いすることなく、指導して下さいました。しかも娘の気持ちに任せっぱなしの「やりたくなったら戻っておいで」というスタンスではなくこれから先の将来に経験するであろう困難時に今のように背を向けたままでは駄目で、きちんと立ち向かう重要性を説きつつ、でもその考えを押し付ける訳ではなく、あくまでも本人がきちんと考え、本人の意思で決められるように導いて下さいました。お陰様でその後クラブを最後まで全うする事が出来ました。

また、在学中、コロナに罹患した際は暫く倦怠感が続き登校もままならなくなりました。「これって後遺症？本当は学校に行きたくない理由が他にあるのでは？」といけないとは思いつつ疑ってしまったり・・・その際担任の先生は放課後面談の時間を作って下さり、担任のみならず学年主任の先生も一緒になって心配して下さいました。

伊那西は先生方が温かいです。私立だから何十年も勤務している先生も多数です。卒業後も先生が変わらず在籍してくれているというのも心強く嬉しいと思います。

卒業式は数年ぶりに通常開催となり在校生全員に見送られて巣立ちました。入場は瞑想で始まり、式終盤は卒業生が「仰げば尊し」を斉唱。その後在校生による「蛍の光」を聞きながら退場という

流れの式でしたが、まさに「厳か」という言葉がぴったりな卒業式でした。
伊那西で過ごした3年間で得た経験は娘の自信に繋がりました。
そしてこの経験はこれからの娘の人生に必ず役立つ事でしょう。
本当にありがとうございました。

(新潟医療福祉大学リハビリテーション学部言語聴覚学科へ進学)

E様 (K・Iさんのお母さま)

最後まで悩み続けた高校受験、伊那西の門を叩き入学式のクラス発表で中学時代、仲の良かった友だちと一緒にクラスになり安心して教室に入りました。学校公開で初めて娘の学校生活を見ましたが、とても楽しそうに友だちと過ごしていて安心しました。

目立つ事をなるべく避けていた娘が、3年生の春「最後の合唱コンクールでピアノを弾こうと思う・・・」と言ってきました。娘の一言に「何を言い出したのかしら？今まで合唱の伴奏なんて一回もやった事ないのに・・・」と耳を疑いました。なぜそう思ったのかを聴くと「2年間ピアノを弾いてくれた友だちに、今回は歌って欲しいから今年は私が弾く。」とのこと。娘はエレクトーンを習っていましたが、ピアノは始めて。それから数ヶ月ピアノの練習を開始。後から学校の練習室でも朝から弾いていた事を先生から聞きました。今まで人前で何かをすることをしなかった娘が最後の最後に「誰かのために・・・」と言った事に成長を感じました。

この3年間、娘からは先生たちの話しもたくさん聞きました。今まで学校生活の話はほとんど聞いたこともなかったのに、日替わりで先生方の話をしてくれました。先生方の話を聞く中で、娘も自分なりの考えを固めていったようです。大学も親の願う方向には進まず、自分で考えて大学、学部を決めました。どんな未来が訪れるのかわかりませんが娘なりに考えて進んでいくと思っています。

共学ではなく女子校で不安もたくさんありましたが、娘の性格は伊那西の女子校が合っていたと感じます。飾らず素の自分で過ごせたことがよかったです。伊那西卒の知り合いから必ず言われる「伊那西なんだね。伊那西なら大丈夫。」と言われた事を実感する3年間を親子で過ごすことができました。

(名古屋学院大学経済学部経済学科へ進学)

S様 (S・Iさんのお父さま)

中学生の頃の娘は自分から進んで自宅学習をするような子ではなかったです。成績もパツとせず、家庭教師をお願いしてもスイッチが入らず、私たちもどうすれば良いか頭を悩ませていました。そんな勉強が得意ではなかった娘は伊那西高校の普通コースを志望しました。学校見学の印象から迷いなく決めたそうです。

不安であろう高校生活も多くの友達に恵まれ楽しいものになっていったようです。日々の充実とともに勉強にも変化があらわれました。わかりやすい授業とご指導のお陰で勉学の楽しさを知り成績が伸び、自宅学習の時間も自然と増えてきました。進路は大学進学を希望していましたが、志

望する大学に必要な授業が普通コースに無くどうすればいいのか困りました。先生方は真摯に相談に乗ってくださり、放課後の1、2時間を使って学校でフォローしていく計画を立てましょう、と娘に寄り添った素晴らしい提案をしていただきました。まさかその様なご提案を頂けるとは思わなかったので感謝しています。伊那西高校にお世話になれて本当に良かったと思える出来事でした。進路を固める3年生の春まで進学を考えていた娘ですが、先生方は揺れ動く気持ちを見守り、そして後押しして頂きました。

結果的に娘は就職を選びましたが、本人の考えを尊重し、それをしっかりとサポートして下さった先生方のご指導のお陰で無事に希望する会社へ就職することができました。人前で話すことが苦手だと思っていた娘は、生徒会に立候補すると言い出し私たちを驚かせてくれました。生徒会での活動は社会に出る大人としての強さも身についたように感じます。非常に良い経験をさせていただきました。

3年間お世話になりまして、伊那西高校の校風、規律正しい身なり、先生方のサポートなど、様々な面において学校のブレない姿勢に安心し、信頼して通わせることが出来ました。伊那西高校での3年間は大きな自信と素晴らしい出会いを得た充実した時間だったように思います。娘の可能性を引き出して頂いた先生方には感謝しております。3年間で難うございました。

(合資会社親湯温泉へ就職)

T様 (Y・Gのお父さま)

伊那西高等学校へ入学した娘は、まだコロナ禍という状況もあり高校でのやりたいことや将来の夢というものはっきりしてなく、不安・心配だらけの高校生活スタートでした。親としても何か目標や夢があった方が学業や部活にも熱心に取り組めるのではいかと娘に投げかけていましたが、なかなかすぐには決められませんでした。

そんなこんなで入学から一ヶ月が過ぎようとする頃、突然「ソフトボールクラブに入る」って驚きのことばを耳にして、苦笑いをしたのを覚えています。まさか、ソフトボールの「ソ」の字も知らない娘が…。ホントに大丈夫かと心配でしたが、娘が決めたことなので全力でサポートしようと思いました。入ってみると実力実績のある素晴らしい部活にもかかわらず、未経験者がほとんどで結成されていることに驚きました。

功績のある顧問の先生には熱心に一人ひとり丁寧な指導をしてくださり日々の娘の成長に驚かされました。また、挨拶・準備・片付けなど基本的行動や礼儀などをご指導していただき大変感謝しています。練習や試合を見に行くと必ず顧問の先生が娘について話をしてくださり、子供たちをちゃんと見てくれているんだなあと、改めて熱心な指導に感謝感激の日々でした。伊那西高等学校でしか得られない貴重な経験や出会いは娘にとって一生の宝です。

大会が終わり進路について考える時期には、担任の先生が親身になって考えて下さり、入学当時はやりたいことや夢がなかった娘が希望企業への就職に向かって学力のレベルアップという課題ができ、今まで見たことないくらい自宅学習をしていました。

先生はどんな魔法をかけたのかわかりませんが親としては不思議でした。担任の先生はじめ進路指導の先生や部活顧問の先生には本当にお世話になり娘が希望する企業にも就職ができ、感謝しきれない気持ちでいっぱいです。3年間ありがとうございました。

(伊那食品工業株式会社へ就職)

M様 (K・Oのお母さま)

私共夫婦はいわゆるIターンで長野県に移り住み、見ず知らずの土地で子育てし、子供達は就学、進学と進んでいきました。次女である本人も、地元少人数小学校での生活のおかげで、マイペースな性格ではあったものの、暖かく見守っていただき充実した学校生活を過ごすことができました。その反面中学校では35人前後のクラスで、本人は大変苦勞したようです。中学校生活と学業でなかなか思うようにいかず、模索する日々でした。高校進学は「伊那西高等学校」と本人のたっでの希望で、本校に受け入れていただいたことは現在でも本当に感謝しております。高校進学に関して不安はありませんでしたが、本校卒業のお子さんをお持ちの多くの知人からもよい学校だとのお話をいただいておりますので、安心して通わせることができました。

学校生活がスタートしてからの娘の生き生きとした様子は、目を見張るものでした。それはひとえに良き友人との出会い、充実した学習環境（この時期はコロナ禍に伴う遠隔授業、タブレット使用等々ありましたが）、意欲的に活動した部活や行事、そしてなにより良き先生方のご指導のおかげと確信しております。残念だったのは、やはりコロナ禍の影響でしょうか。親が関わる行事が極端に少なくなり、子供達の学校での姿を見る機会が少なくなったことでしょう。

入学当初は、卒業後は就職希望と思っておりましたが、学業に励むことが楽しみとなり、自分のやりたいことが具体的になり、それに向かってやるべきことが何であるかが、見えてきたようです。希望大学が決まってからは、先生方のご指導を得て、自分で積極的に行動していました。進路担当の先生には、面接練習など根気よく、親身に協力していただき、本当にお世話になりました。

「この学校で本当に良かった。」とよく話しています。その言葉でサポートした親も充実感を味わうことができます。

(清泉女学院短期大学国際コミュニケーション学科へ進学)

M様 (O・Kのお父さま)

娘が伊那西高等学校に入学することになったのは、志望していた公立高校の受験に失敗したからでした。希望した高校ではないこと、上の子供たちは公立高校に進学したこと、私たち両親も男女共学高校だったことなどから、心配と不安が先立ち、入学式を暗い気持ちで迎えたことを思い出します。

しかし、入学して数日、数週間経つうちに、そのような不安な気持ちが次第に解消されるのを感じました。娘が毎日生き生きとして通学し、楽しそうに学校での様子を話してくれることからです。娘にはとても気の合う、よい友達ができたようでした。友達は皆、伊那西高等学校へ入学した経緯や動機も、また所属しているクラブも異なるようでしたが、それぞれの立場で努力し頑張っていることが娘の話からもよくわかりました。自ら望んだところではない進学先でこのような出会いがあることの不思議さを感じ、いつまでも親が受験の失敗を引きずるのではなく、与えられた場所で努力し楽しむ娘を精一杯応援したい、と思えるようになりました。

親の心配とはうらはらに毎日学校生活をただ楽しんでいる娘に、ニュージーランド短期留学という機会を与えていただいたことは、娘の進路や人生に大きな影響を及ぼしたのではないかと思います。初めての海外、初めてのホームステイ、何もかもが娘にとって初めてのことでしたが、学校や引率して下さった先生のご配慮のおかげで、なんの不安もなく、短期間とはいえ様々な感動や驚

きや発見、出会いに満たされた実り多いものになりました。

帰国後の娘は一層英語学習に力を入れ、海外のニュースにも関心を持つようになり、やがて異文化をもっと深く学びたいとの思いからそのような進路を模索することとなりました。その後は、学校の先生方からの厚い支援を受け、無事に志望校に進学することができたのですが、この間の学校の、個々の志望や能力に応じた情報提供、論文対策、面接指導等のサポート体制には本当に驚かされました。

娘は現在進学先の大学で充実した毎日を過ごしているようですが、これも伊那西高等学校で過ごしたことで得た、よい友人や先生方、留学先でお世話になった方々との出会いの賜物と思っています。

(都留文科大学文学部比較文化学科へ進学)

Y様 (S・Kのお母さま)

中学・高校と、大人への階段をのぼる中で子供たちは学校という学びの場においてたくさんのごことを経験し、戦って過ごします。学業やクラブ活動だけでなく友達との人間関係や、先生方とのやりとりなど、いろんな人と関わって調和して生きていくという、社会に出るための訓練のようなものです。

心と体は少しずつ大人へと変化し、自我が芽生える時に周囲の大人や親の存在は疎ましく、時に友人関係に悩む、成長の過程において大きく揺れ動く大切な時期です。今思えば、自分もそうだったかなと思うこんにちですが、我が家も何か声をかけることすら躊躇うような、そんな空気の中で過ごした時期がありました。

そんな3年間、私たち親子が共に救われたのが、「信頼できる先生方に恵まれた」ということでしょうか。高校生ともなると親に話しづらいこともたくさんあります。娘にはなんでも相談でき、心を許せる先生がいました。学校のことだけでなく、私生活や進路のことなど多方面から娘を支えてくださいました。おかげ様でクラブ活動はとても充実した時間となりました。

親の私は心配事があると、担任の先生に何度も相談に行きました。その都度、親が知らない学校での様子や娘の本当の気持ちを聞いていただき、思いやりのある温かい対応で娘の学校生活を支えてくださいました。娘こそ、家族同様に先生方に育てていただいたと思っています。

伊那西高校は校則がしっかりしていて少し窮屈な部分もあるかもしれませんが、でもこの経験は必ず社会に出て役に立つはずで、進路指導に関してもきめ細やかな対応で子供の思いに寄り添い丁寧にご指導いただきました。最後は先生方に背中を押していただいて、夢だった看護師を目指し、飯田短期大学に進学致しました。

毎日、たくさんの教科書を詰めた大きなリュックを背負い、また少し成長した娘の姿を見ながら、3年間支えてくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいになります。そしていつの日か先生方にお会いできる時、頑張っている娘の姿を見せられたらと願うばかりです。本当にありがとうございました。

(飯田短期大学看護学科へ進学)

K様 (H・Tのお父さま)

第一志望ではなかった伊那西高校でしたが、今振り返ると、娘との日々の会話の中からは勉強・クラブ活動・生徒会…と、忙しくも楽しそうに高校生活を送っていると感じられました。この学校で良かったと娘の3年間の成長から感じています。

生徒会では風紀委員会の委員長として1年間活動しました。先生から推薦されたとのことで、人前に立つことがあまり得意ではない娘としては乗り気ではありませんでしたが、家族からも勧め、引き受けることになりました。会や行事の進行等で困ることもあったようですが、先生に相談しながらやり遂げることが出来ました。調整や前段取りといった社会に出てから必要なスキルを学ぶことも出来ました。

合唱コンクールでの賞受賞はクラス一丸となった成果で、「進学クラスは少人数なのに大賞が取れたし、一番声が出ていたと先生方にも褒められた」と誇らし気に語っていました。素晴らしいクラスメートに恵まれ3年間は過ごせたことは一生の宝になると思います。

娘には小学生の頃から言語聴覚士になりたいという目標がありました。クラブにインターアクトを選んだ理由の一つがこの目標にあります。クラブで学んだ手話は参考書を買って、手話検定 6級を取得しました。また、ボランティア活動、留学生との交流会、ロータリークラブの皆様のお力添えで実施いただいた伊勢神宮参拝、大阪への研修旅行など、多様な方々との交わりと経験によりコミュニケーション力や自発性の向上など、娘の将来の糧になったと感じています。

伊那西高校では進路ガイダンスとして、大学や専門学校の先生が来校し学校の紹介をして下さります。娘は1年生の時には行きたい学校を決めることができ、推薦に必要な評定以上を保てるように日々頑張ることが出来ました。

娘は言語聴覚士を目指して専門学校に進学し、一人暮らしと勉強の両立をスタートさせました。この3年間の成長を土台に更に成長する娘を見守っていきたいと思います。

進学後初めての連休ゴールデンウィークに帰宅すると、学びたかった分野を学ぶことがこんなに楽しいとは想像以上だと話してくれます。

(サンビレッジ国際医療福祉専門学校言語聴覚学科へ進学)

T様 (K・Hさんのお母さま)

娘から「伊那西へ行く」と言われた時「伊那西かあ…私立でしかも女子高かあ…」と思ったのが率直な気持ちでした。

しかし、周りから「伊那西は就職や進学に強くていいよ」と聞いたので、改めてパンフレット等を見返して、ああ確かにいいかもしれないなと気持ちも変わっていきました。

4月になり、いよいよ入学式。口数の少ない子だけど、友達は出来るだろうか?と心配していましたが、すぐに友達も出来、絵を描くことが好きな娘はマルチメディアクラブに入部しました。

3年の時には、先生からの勧めもあり、生徒会の役員を務める事になりました。人前に出て何かをするというような性格ではないのですが、不安や緊張の中精一杯取り組んでいたと思います。文化祭が近づくにつれ、準備のため帰りが遅くなったり休日も学校へ行かざるを得なかったり、殆ど休みがありませんでした。ですが、頑張った分とても素晴らしいものになりました。

文化祭も終わり、ようやく落ち着いて進路について家族で話し合いをすることになりました。そ

の時に、今まで自分の意志であれがやりたいこれがやりたいと言う事の無かった娘が、初めて自分の意志で「イラストデザインの専門学校へ行きたい」と言いました。親としては就職をしてほしかったのですが、近くで娘の頑張りを見てきたので、娘の気持ちを第一に考え応援することにしました。

おかげさまで学校推薦をいただくことが出来、無事に希望する学校へ進学することができました。高校生活最後の日には、担任の先生からクラス全員に最高のプレゼントを頂き、娘にとって一生忘れる事の無い思い出が出来たことと思います。

すべてが良かった3年間とは言えませんが、良き友達良き先生に出会えたこと、また、伊那西高校ならではの授業や研修があり、他では体験出来ないことを学ばせていただいた事に感謝いたします。有難うございました。

(岡学園トータルデザインアカデミーデザインビジネス科イラストデザインコースへ進学)

H様 (A・Kのお母さま)

中学の時、本人から「お箏のクラブがあるから伊那西高校に行きたい」と話がありました。私の職場にも、伊那西高校の生徒さんの保護者だった方や卒業生が何人もおり、お話を聞かせてもらいました。どの保護者さんも「先生方が親身になってくれた」「伊那西高校でよかった」と言い、卒業生の方も「楽しい学校生活が送れた」と言っていました。一緒に働いている卒業生の皆さんもとってもしっかりした人たちでした。「ここなら安心して3年間を過ごせそう」と伊那西高校への進学を決めました。入りたくて入ったお箏クラブでしたが、「クラブに行かなくてはいけない」という責任に足が向かないことも多くありました。しかし、顧問の先生はじめ担任の先生、クラブの皆さんのおかげで、3年間どうにかやり抜くことができました。中学の時も、吹奏楽クラブに入っていたのですが、行くことができなくなり退部した経験があるので、「やり抜くことの喜び」を知ることができました

クラスの中では、担任の先生がすべての生徒に活躍できるチャンスを与えてくれていました。そういった情報もこまめに連絡をしてくれ、家でも学校での様子を話題にすることができました。本人も認めてもらう機会があって自信につながったと思います。

先生方が親身になって生徒の成長を見守ってくれているのも伊那西高校ならではのだと思います。学校で本人の様子がちがうと、すぐに連絡をくれました。学校のルールが守れなくて迷惑をかけたこともあります。担任の先生はじめ多くの先生方に心配、協力していただきました。夕方だったり時間外だったり、早朝だったり、いつもこまめに連絡をくれ、迅速な対応をしてくれました。

本人も、友人関係にも恵まれ、どの先生もが気にかけてくれて声をかけてくれる学校だったので、「勉強をやり学校に行く」ことを忘れるくらい楽しい高校生活が送れました。学校に行くことが大好きで、休むことなく3年間学校に通えました。

娘は現在、短大に進学しています。西高祭には友達と一緒に先生や後輩に会いに行き、近況報告をしてきました。お世話になった先生方から声をかけてもらい、また、担任の先生も「いつでも相談に乗るから困ったことがあったら高校において」等の優しい声掛けをいただきました。3年間だけでなくその後も、心のよりどころになる良い学校だと思います。

(飯田短期大学幼児教育学科へ進学)